

令和4年度 八幡小学校 教職員 非違行為防止研修

八幡小学校の教職員として、子どもたち、保護者・地域の皆さんに信頼されるように、4月から毎月、非違行為防止研修に取り組んできました。()は、非違行為防止研修後の職員の感想)

- 4月
- ・飲酒運転をはじめとする非違行為の根絶、綱紀粛正に向けて、各自で「誓い」を記入した。
 - ・「飲酒運転」「個人情報漏えい」「体罰」「セクハラ」「わいせつ行為」「公金」等のチェックポイントについて改めて自分自身の考えや言動を振り返ったり、決意を新たにしたりし、八幡小の職員として守るべき事柄を確認した。

- 5月
- ・飲酒運転の根絶・交通法規の遵守について、法律や処分の指針の面から確認するとともに、チェックリストに取り組み、それぞれの普段の生活を見直した。

もし交通事故を起こしてしまったら、だれでもパニックを起こすと思うが、車を安全な場所に停止して負傷者の救護をしたり、パニックが過ぎるのを待って、警察・消防・校長に連絡を入れたりするマニュアルに従って行動することを確認できてよかった。

- 6月
- ・「わいせつ行為」「スクールセクハラ」の事例を読み合い、どう対処すればよかったのか話し合った。また、各自チェックリストに取り組み、自身を振り返り、防止への意識を高めた。

- 7月
- ・飲酒運転のテレビニュースを見て、その悲惨さやアルコール残量について学び、改めて飲酒運転は絶対にしないことを職員全員で誓った。

対外的なお酒の席に参加する機会はなくなったが、家で気軽に飲む機会が増えたようにも思う。休みだからといって遅くまで飲むことがないよう、翌日に影響がないよう、これからも気をつけていきたい。

- 8月
- ・年度当初に書いた「誓い」を読み返し、改めて署名捺印することで、非違行為根絶に向けて気持ちを新たにした。

- 9月
- ・実際にスピード違反をした職員から、実体験を基に話を聞き、普段からスピード違反しないで、余裕を持って運転することなどを改めて誓った。

あわてているとどうしてもスピードを出しすぎることはある。早めに学校を出て、時間に余裕を持つことが大事だが、会議にもし間に合いそうになれば、電話をするなどして、多少遅れてもいいかなというような気持ちでいた方がよい。

- 10月
- ・「学校と著作権」について動画を見たり、「デジタル・シティズンシップ教育」について「情報モラル教育」との比較を通して学んだりして、学校における著作権や個人情報の管理徹底を確認した。

学校は著作権の例外が適用されるが、授業で使用するもの以外は原則許諾が必要であるので注意しなければならない。

- 11月
- ・「懲戒」と「体罰」の違いやアンガーマネジメントについて話し合った。
 - ・体罰の防止に向け、「体罰の防止のためのセルフチェックシート」に取り組み、自身の行動や指導方法などについて見返した。

反抗的な態度やいわゆる「キレル」児童に対して、どう関わって落ち着かせたらよいか、やはり難しい。注意ばかりではなく、注意したら少し離れて様子を見ること、また、ずっと言い合いにならないようにすることを心がけていきたい。

1月

- ・「交通事故を起こさないための研修」について、講師として千曲警察署の警察官の方に、またオブザーバーとしてPTA会長 古家さんに来校していただき、研修会を行った。
- ・講師からは、交通事故や飲酒運転に関わる行動心理や、防止に向けて守るべきことなどについて教えていただいた。
- ・PTA会長 古家さんからは、「交通安全や非違行為防止について、熱心に研修を行っている先生方の姿を見て、このような熱心な先生方に普段から子どもたちを見てもらえているのでとても安心しています。」というお話があった。

- ・交通事故は、加害者の人生も被害者の人生も大きく狂うことになるので、「つい」「うっかり」ということがないように、肝に銘じていきたい。
- ・具体的なお話を聞き、改めて意識を高く持って運転しなければならないと思った。
- ・交通法規を守りながら運転することは、最低限やらなければいけないと実感した。
- ・飲酒運転は絶対にしません。

1月

- ・4月に書いた「誓い」を読み返し、署名捺印することで、非違行為根絶に向けて気持ちを新たにした。

2月

- ・これまでの非違行為防止研修のまとめとして、「信頼される教職員をめざして」を読み合い、改めて教育公務員としての使命感と責任感を持つこと、また、社会人として規律を守ることの両方が重要であると、非違行為根絶を誓った。

今年度も、毎月、非違行為防止の研修を重ねてきました。事例の読み合わせやチェックリストの活用、同僚との意見交換、講師のお話など、いろいろな方法で非違行為防止への意識を高めてきました。これからも、研修を重ねながら「信頼される八幡小の教職員」を目指していきたいと思います。